

2007年度 愛知大学後援会課外活動奨励賞授与式 愛知大学同窓会奨励賞授与式



日時 | 2008年3月1日(土)11:30~12:30
場所 | 車道校舎 3階コンベンションホール

プログラム

- 一、開式
- 一、愛知大学後援会課外活動奨励賞授与式
 - 挨拶 愛知大学後援会会長 田中和彦
 - 選考結果報告 学生部委員長 沓掛俊夫
 - 奨励賞授与
- 一、愛知大学同窓会奨励賞授与式
 - 挨拶 愛知大学同窓会会長 安井善宏
 - 選考結果報告 同窓会広報委員長 加藤満憲
 - 奨励賞授与
- 一、愛知大学学長激励の辞
愛知大学学長 堀 彰三
- 一、受賞者代表謝辞
後援会課外活動奨励賞受賞者代表
同窓会奨励賞受賞者代表
- 一、閉式

愛知大学後援会／愛知大学同窓会

●最優秀奨励賞

個人

たけだ のぶてる
武田 信照氏

前愛知大学(第14代)学長



〈愛知大学学長として、大学と同窓会との強い信頼関係を構築〉

◆推薦趣旨◆

愛知大学学長として、大学と同窓会との関係を更に密接にし強い信頼関係を築いた。学長就任以降8年間、建学の精神の理念のもと、大学の教学体制の充実(学部再編、専門職大学院開設等)、文部科学省「21世紀 COE プログラム」や「特色ある大学教育支援プログラム」の採択、車道校舎再開発などに尽力したが、同窓会活動への積極的な参加と協力関係の構築は、このような事業を遂行する上で卒業生の広い社会的経験や知的な援助を受けることを容易にし、本学がこの地区の大学の指導的な役割となる基盤を作った。

◇略歴◇ 1961年 大阪市立大学経済学部卒業/1969年 同大学院経済学研究科博士課程修了後、本学法経学部に着任/1999年 学長、理事長 就任/2007年 学長、理事長 退任/専攻は経済学史、経済学部教授として教鞭をとる

さかぐち けいぞう
阪口 慶三氏

1967年(昭和42年)法経学部経済学科卒業



〈高校野球監督としての指導力が野球界で高く評価される〉

◆推薦趣旨◆

愛大在学中に、チームの後輩をエースに育て上げ、キャプテンとしてBクラスの愛大野球部を8年ぶり8回目の優勝に導いた。卒業後は、母校の東邦高校の監督に就任。38年間の長い間、指揮をとり24回甲子園に出場させ、昭和52年夏、昭和63年春には準優勝。平成元年春念願の初優勝を果たした。

東邦高校を定年後、大垣日大高校の監督に就任し、昨年2年目にして甲子園準優勝した指導力は野球界で高く評価された。

低迷していた愛大野球部に持ち前のパワフルな指導力で“第2期黄金時代”をつくりあげた功績、東邦高校では野球一筋38年間の長きにわたり苦難の道を乗り越え名将・闘将阪口として戦い抜いた実績は偉大である。又、甲子園で優勝するなど成績もさることながら、愛知大学出身を表に出し、堂々と勤め上げたことは我々同窓生に大きな教訓や自信を与えた。

◇略歴◇ 1967年 愛知大学法経学部経済学科卒業後、母校東邦高校の野球部監督に就任/1989年 春の大会で優勝に導く/2005年 東邦高校退職/2005年～ 大垣日本大学高校野球部監督に就任

はちや そうげん
蜂谷 宗玄氏

(本名：蜂谷 貞郷) | 1962年(昭和37年)文学部社会学科卒業



〈香道流派「志野流」の第20代家元として活躍〉

◆推薦趣旨◆

茶・華道とともに日本に古くから伝わる香道、2つある流派の1つ「志野(しの)流」の20代家元、蜂谷宗玄氏は古くから名古屋市西区に「松隠軒」の香道家元・宗匠として香道を広め、日本国内ばかりでなく欧米でも教える。国内では全国にいる多数の弟子の指導にあたり、カルチャースクールなどでも指導、普及に尽くす。

香りを鑑賞する香道は室町時代に起こり、志野流の祖は京都で志野宗信。第11代から名古屋に移り住み、以来代々受け継がれている。

百科事典にも宗玄氏の名があり、昨年(2007年)4月のナゴヤドームで開かれた「アクティブシニア2007」でも「香道コーナー」を開設、香道の普及に尽力している。

◇略歴◇ 1962年 愛知大学文学部社会学科卒業

●優秀奨励賞

個人

かわきた みのる
河北 実・さやか氏

2001年(平成13年)経営学部卒業・2000年(平成12年)経営学部卒業



〈夫婦でアマチュアゴルファーとして活躍、好成績を修める〉

◆推薦趣旨◆

実氏は愛知県豊橋市でゴルフ練習場を経営するかたわら、多忙な仕事の合間をぬってアマチュアゴルファーとして大会に出場。第29回佐々部杯ゴルフ選手権大会にて圧勝し悲願の初優勝を果たし、2007年クラブチャンピオン「中部一」に輝き初の栄冠を獲得した。

一方、さやか氏は愛大ゴルフ部の1年先輩。2001年の中部女子アマチュア選手権で優勝経験を持ち、2007年の日本女子ミッドアマチュアゴルフ選手権では2位の成績を取めた。

◇略歴◇ 2000年 愛知大学経営学部卒業(さやか氏)/2001年 愛知大学経営学部卒業(実氏)

しもざわ たかし
下澤 嶽氏

1981年(昭和56年)法経学部経済学科卒業



〈国際協力NGOのリーダーとして活躍し、高い社会的評価を受ける〉

◆推薦趣旨◆

愛知大学法経学部を卒業後、国際社会を舞台にしたボランティア活動に一貫して取り組み、現在、(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)事務局長の要職にある。JANICは、1987年に当時の日本における国際協力NGOのリーダーたちが設立した全国規模のネットワーク型NGOであり、外務省や国際協力機構(JICA)と国際協力NGOとの定期協議のNGO側の窓口として、いわば日本の国際協力NGOの総元締めとしての役割を果たしている組織である。その事務局長を愛大OBである下澤氏が務めていることは、国際的教養と視野をもって世界平和・文化に寄与すべき人材の育成を設立趣旨とする愛知大学や愛知大学同窓会にとって、誠に誇らしいことと言える。

昨年、20年近い国際協力の経験をベースに、著書を発行。国際協力に関心のある若者から大きな注目を集める。

◇略歴◇ 1981年 愛知大学法経学部経済学科卒業/1988～1993年(特活)シャプラニール=市民による海外協力の会の駐在としてバングラデシュに滞在/1999～2002年 同会の事務局長を歴任/2007年 単著『開発NGOとパートナーシップ：南の自立と北の役割』(コモンズ刊)を発行

あまの すみき
天野 純希氏 | 2005年(平成17年)文学部史学科卒業



〈第20回小説すばる新人賞受賞〉

◆ 推薦趣旨 ◆

安土桃山時代を舞台に様々な経歴を持つ4人が一座を結成し、諸国を巡業する中での出来事をユーモラスに描いた『桃山ビート・トライブ』で1216編の応募作品の中から、第20回小説すばる新人賞(株式会社集英社主催)を受賞。同新人賞では、佐藤賢一、村山由佳、荻原浩、三崎亜記など、毎年個性豊かな新人作家を送り出しており、今回候補者も期待の新人として作家デビューを果たした。

◇ 略歴 ◇ 2005年 愛知大学文学部史学科卒業

● 奨励賞

個人

よこい まさゆき
横井 正幸氏 | 1990年(平成2年)法経学部法学科卒業



〈落語作家活動、並びにアマチュア落語家として活躍中〉

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学在学中、落語研究会に所属し、卒業後30年の歴史を誇る素人落語家集団『豊橋落語天狗連』に入会。月例寄席や地域での落語会の高座に上がるかたわら、創作落語を執筆。平成16年、春風亭小朝、笑福亭鶴瓶、立川志の輔、春風亭昇太らによる『六人の会』主催の『第1回全国落語台本コンクール』にて1048本の作品の中から、自作が最優秀賞を獲得。以後、プロの落語作家として、春風亭小朝、林家木久蔵、林家いっ平らの著名なプロに毎月数本、定期的に落語台本を提供し続けている。また自らも『微笑亭さん太』という素人落語家として年間40~50回の高座をつとめ、その内容は、二日間で1200人以上のお客さんが詰めかける豊橋市公会堂での小市民寄席、大須演芸場でのプロの落語家とのジョイント寄席など多岐に渡り、その模様は9月に放映されたテレビ愛知のドキュメンタリー番組でも詳細に取り上げられた。

◇ 略歴 ◇ 1990年 愛知大学法経学部法学科卒業

のぐち こうじ
野口 幸治氏 | 経済学部4年次生



〈第50回全日本学生賞典総合馬術競技大会にて好成績を修める〉

◆ 推薦趣旨 ◆

平成19年6月19日から行われた第42回中部学生自馬競技大会において総合馬術競技の予選を勝ち抜き、中部の大学(中部9県)15校を代表して10月29日~11月4日に東京都世田谷区のJRA馬事公苑にて行われた第50回全日本学生賞典総合馬術競技大会に出場し馬場馬術の調教審査競技を勝ち抜いた。国内でも非常に難度が高くゴールを切る事が難しいと言われる耐久競技において見事ゴールを切り、最終競技である余力競技まで勝ち抜き惜しくも失権したものの、当馬術部においても有望な選手であり後輩達への良い目標を示した。今後の馬術部の可能性を拓いてくれた素晴らしい功績を立てた。

◇ 略歴 ◇ 2003年 愛知大学経済学部入学

● 優秀奨励賞

団体

あいちだいがくきゅうどうぶ
愛知大学弓道部 代表: 男子主将 **西野 充昭**、女子主将: **鈴木 麻代**



〈数々の弓道選手権大会で優秀な成績を修める〉

◆ 推薦趣旨 ◆

平成19年度の以下の優秀な成績を修め、愛知大学の名前を全国に広めた。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 第50回 東海学生弓道選手権大会 | 男子部: 団体3位
女子部: 団体優勝 |
| 2. 第40回 愛知県下学生弓道選手権大会 | 男子部: ベスト4
女子部: 団体優勝 |
| 3. 第55回 全日本学生弓道選手権大会 | 男子部: ベスト16
女子部: 団体3位 |
| 4. 第51回 東海学生弓道秋期リーグ戦 | 男子一部団体3位 |
| 第40回 東海学生弓道秋期リーグ戦 | 女子一部団体優勝 |
| 5. 第31回 全日本学生弓道女子王座決定戦 | 女子部が団体優勝いたしました。 |

あいちだいがくしょうりんじけんぼうぶ
愛知大学少林寺拳法部



〈数々の少林寺拳法大会で優秀な成績を修める〉

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学少林寺拳法部は、豊橋校舎、名古屋校舎併せて30名と中部地区の大学の少林寺拳法部の中では一番多くの部員数を誇っている。

今年の第43回東海学生少林寺拳法大会では見事総合優勝を果たし、5年連続で総合優勝という金字塔を打ち立てた。また、今年日本武道館で行われた第41回少林寺拳法全日本学生大会では、予選を勝ち抜き本戦に駒を進めたのは中部地区では愛知大学だけであった。なおかつその中で優勝1名、4位2名、6位1名が入賞するという創部以来の最高の成績を修め、愛知大学の名を全国に広めた。

以下平成19年度の愛知大学少林寺拳法部の成績

- ・第43回東海学生少林寺拳法大会 総合優勝(5年連続)
- ・2007年愛知県少林寺拳法大会 最優秀賞3組、優良賞2組、敢闘賞2組
- ・第41回少林寺拳法全日本学生大会 女子単独演武段外の部で最優秀賞(1位)
女子組演武初段の部で敢闘賞(4位)男子単独演武有段の部で敢闘賞(6位)
- ・第4回少林寺拳法東海学生新人大会 最優秀賞8、優秀賞4、優良賞3、優秀拳士賞2

●奨励賞

団 体

あいちだいがくほうがくぶもぎさいばん

愛知大学法学部模擬裁判プロジェクトチーム 代表：藤岡 倫生

ふじおか みちお



〈「学生主体の企画・運営」と「地域貢献」とをドッキングさせた愛知大学法学部ならではの模擬裁判を開催〉

◆ 推薦趣旨 ◆

愛知大学法学部は、2007年12月15日（土）に車道校舎で市民を対象とした模擬裁判を開催した。これは、2009年度までにスタートする裁判員制度を市民の方々により深く理解していただくことを目的として2005年度から開催しているもので、今回が3回目である。模擬裁判を企画・運営したのは、「法律学特殊講義」（担当：広瀬裕樹准教授）の受講生を中心とした模擬裁判プロジェクトチーム（3～4年生約60人）である。当日は250名を超える参加があり、市民・社会からの関心の高さを示した。

模擬裁判の準備には実に8ヶ月を費やし、裁判員制度の勉強から始め、事件のシナリオづくり、秋からは模擬裁判のリハーサルを続け改善を重ねた。

この模擬裁判の試みの特色は、「学生主体の企画・運営」と「地域貢献」とにある。すなわち、学生が主体となって企画・運営し、その成果を広く一般公開して地域社会への貢献をも試みたものである。それは、法学部教育と大学の地域貢献とをドッキングさせた、愛知大学法学部ならではの特色ある模擬裁判であり、一般の方々の裁判への関心を高めた。

ちいき

地域づくりサポーター



〈大学、とりわけ“学生”としていかに地域と密接な関係を築くかを課題として日々活動〉

◆ 推薦趣旨 ◆

地域づくりサポーターは、三遠南信地域連携センターを拠点とし、同センター関係者のアドバイスを受けながら、大学、とりわけ“学生”としていかに地域と密接な関係を築くかを課題として、日々活動を続けている学部横断的な学生（約20名）の集まりである。

サポーター学生は、大学教職員の立場からの既存の貢献の手法とは一線を画し、あくまで学生の視点でどう地域づくりに関わることができるかを模索し、奮闘している。

本年度においては、第2回目となった「全国学生まちづくりサミット」を、豊橋市内3大学の主催で開催。「つながる。つなげよう。学生の輪!!」のテーマのもと、三つの目的（①大学間の連携、②活動内容、地域を越えた学生の連携、③後輩たちへの活動の伝達）を達成した。開催にあたっては、早い時期からの準備、他大学生との調整等に奔走し、それが功を奏し、サミットを盛会裡に終えることができた。

やまもと しげとし

山本 茂紀ゼミ



〈「自分たちの町の禁煙／喫煙対策とその状況」という研究テーマに基づいた、禁煙プロジェクトの推進〉

◆ 推薦趣旨 ◆

「自分たちの町の禁煙／喫煙対策とその状況」を研究テーマに掲げ、約10ヶ所の市町村を対象に、健康保持のために、禁煙について行政がどう取り組んでいるかを調査し、行政と一緒に改善策を作り実現することを目的とし2006年4月から2009年3月の3年を調査研究期間としている。

各市町村の担当者を訪ね、公共施設での禁煙対策の取り組み状況を把握した上で、実際に街頭、病院、学校、レストランなどを対象に実態調査を行なっている。愛大生の熱心な調査状況に接し、行政の担当者も刺激され、禁煙区域の拡大や禁煙レストランの普及など「健康的で、住みよい町づくり」への貢献に感謝されている。

●資格試験奨励賞

新司法試験



伊藤 弘泰

2006年大学院法務研究科修了



松井 太一

2006年大学院法務研究科修了



永田 明良

2007年大学院法務研究科修了



矢野 亜紀子

2007年大学院法務研究科修了



山本 健二

2007年大学院法務研究科修了

旧司法試験



秋山 理恵

2008年3月現在 大学院法務研究科在学中



水野 憲幸

2008年3月現在 大学院法務研究科在学中

公認会計士



鈴木 真策

2006年法学部法学科卒業



鬼頭 卓生

2008年会計大学院会計研究科3月修了予定

司法書士試験



安井 章人

2003年法学部法学科卒業

愛知大学同窓会奨励賞授与取扱要領

目的

この取扱要領は、本会会員（滬友会、推薦校友を含む。）並びに愛知大学関係者（教職員、在学生等）が社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野に於いて活躍し、または、これらの分野で活躍することが期待される個人又は団体に対し、愛知大学同窓会（以下「同窓会」という。）が「同窓会奨励賞」を授与するために定める。

表彰

表彰は、会員から推薦または申請のあった個人及び団体に対し、選考の結果、個人にあっては表彰状並びに副賞（記念品）、団体にあっては表彰状並びに副賞（奨励金）を授与する。

推薦

候補者の推薦（自薦を含む。）は、毎年12月20日までに社会・文化・学術・芸術・スポーツ等の分野で活躍のあった個人又は団体について、活躍の内容をまとめた推薦書（800字程度）を同窓会会長宛に提出する。ただし、叙勲及び功労賞等の受賞者は対象から除くものとする。

申請

資格試験奨励賞は、毎年12月20日までに、会員から同窓会会長宛に申請書および合格したことを証明する書類（写し）を提出する。

選考

会員から推薦のあった個人及び団体について、同窓会広報委員会で選考し、同窓会常任理事会で決定する。

表彰の種類は、個人、団体とも次のとおりとする。

A 最優秀奨励賞（全国レベルでの活躍）

個人…記念品 10万円相当

団体…奨励金 10万円

B 優秀奨励賞（地域レベルでの活躍）

個人…記念品 5万円相当

団体…奨励金 5万円

表彰の種類

C 奨励賞（一般的な活躍）

個人…記念品 3万円相当

団体…奨励金 3万円

D 資格試験奨励賞

愛知大学（大学院、学部、短大）に在学中又は卒業後3年以内の者で以下の試験に合格した者。

【対象資格試験】

1 司法試験（最終合格） 2 公認会計士試験 3 弁理士試験 4 国家公務員第1種試験 5 司法書士試験 6 税理士試験

個人…記念品3万円相当

附則(制定)

この取扱要領は、2003年1月18日から施行する。

この改正取扱要領は、2006年5月13日より施行する。